

副会長に3氏が就任

難しい情勢のなかいつそう高まる協会の役割

医者が医者らしく、患者が人間らしくいられる医療を

女性医師の立場から、「女性部」の取り組みを進展させたい

副会長 山本 美和



富山協立病院の勤務医です。専門は内科で、呼吸器や在宅、老年医療を中心にやっております。五年前に医師不足、医療崩壊を訴え、富山の医療界が協力し開催された「本田宏先生の講演会」に実行委

員として参加したことがきっかけで、保険医協会の理事になりました。この間、多くの活躍しておられる理事の先生方から学ばせていただいたり、協会の講演会等で勉強したり、保険医年金に加入させていただいたり、とても感謝しております。副会長という大役を務める自信はないのですが、今総会で女性理事がさらに一人増え、四人になったこともあり、「女性部」の取り組みを進展させていきたいと思っております。また、総会決議文にもあるように、医療だけでなくヒューマンズムの立場から、医師として平和や環境を守ることはとても大切だと考えていますので、この分野でも、協会に期待したいと思っております。よろしくお願いたします。

来春「休業保障」の普及を再開内容的に本当に素晴らしい制度

副会長 岡宗 祐二郎



就任後、長期に渡り共済を担当して参りました。この間共済制度の三本柱の一つである保険医休業保障が、二〇〇五年より普及

できなかったようになっていました。その後再開に向けて会員の先生方には適用除外の署名活動など大変お世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。

休業保障の停止は、日本の保険市場において自主共済への優遇が民間保険の自由な競争の妨げになる、というアメリカの要求をのみ込んだことによるものです。これはTPPに参加すると大変なことになるという見本ではないでしょうか。このように協会活動の量と質が高まるにつれ、副会長も専門領域を分担して会長を支えていく必要があるとのことで、私にも白羽の

医療福祉分野の困窮必至のなかさらに重要性が増す協会の活動

副会長 三崎 広樹



して五年間、何をしてきたかと聞かれ特段胸を張れることはないのですが、私自身はいろいろ勉強になることが多かったです。

理事会では内科の先生と一緒に話し合うことで、貴重な内科の知識や視点が得られますし、保険点数や個別指導に関する詳しい基礎

資料にふれることができた。それを会員の先生にわかりやすく説明することなどは、自分の診療にも大きなプラスになっていると思います。経済低迷、国際的地位の低下で、切り分けるパイそのものの大きさが縮小した上、総選挙の結果、公共工事への予算重点配分や人からコンクリートへの回帰を標榜する政権の発足も決まり、医療、福祉の分野のさらなる困窮が必至です。国

民の医療と、医療従事者の生活を守る保険医協会の活動の重要性がさらに高まることと思えます。今後は、歯科歯科連携や訪問診療など新たな分野に取り組んで行くとともに、個別指導や経営問題など会員のニーズに答える活動を通じて、会員の皆様のお役に立てればと考えています。微力ながら誠心誠意務めさせていただきますと思っておりますので、どうかよろしくお願いたします。

在宅医療が私の医療の原点

理事 平野 誠



この度、協会理事に選任されました高岡の平野です。立山町生まれの富山中部高校出身です。金沢大学卒業

後第一外科に入局し、三十歳になった頃、縁があつて厚生連高岡病院外科に赴任しました。その後二十余年勤務した後からの開業です。遅きに失した感はあるものの、勤務医時代に癌の末期患者さんの在宅へ帰りたいという切ない思いを数多く味わって開業を思い切りました。さて年をとると、ふと子

供のころ(昭和三十年代)を思い起こすことがあります。当時、町には病院が少なく在宅で寝たきりのお年寄りを何人も見てきました。子供が遊びにくるとそれは喜んでくれました。最近、映画「三丁目の夕日」や「レイルウェイズ」を観て久しぶりに涙しました。その当時、たまに来てくれる往診の先生が聴診器を胸に当てる姿を今も忘れられません。私の祖母も脳卒中を患い自宅で亡くなりました。入院させてやれなかった父の涙を見て医者を目指した自分がそこにはありません。その後高度成長期とともに病院全盛の時代が到来しましたが、これからの医療のあるべき姿は機能分化です。病院は主に「Inpatient」で、在宅では主に「Outpatient」を観ています。今後は在宅医療を中心に保険医である我々に何が出来るか、そして何をすべきかを皆さんと一緒に考えていきたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

新たに三氏が理事に

私たちが得意な分野で協会活動を支えます

理事 深川 差雅香



急性期病院や診療所との連携を通して生きがいのある療養生活支援を

父は魚津市の鴨川町で産婦人科病院として開業し、時代とともに長期療養に転換し、十一年前に今の東尾崎に移転いたしました。私は六年前に跡を継いで今に至ります。

この度、富山県保険医協会の理事という大役を仰せつかった深川差雅香(ふかがわがこ)です。当院は魚津市で一五四床の長期療養病院を開業して

ハビリテーション、デイサービスを展開し、患者さまや地域の皆様と信頼関係に基づいた医療・リハビリ・ぬくもりある介護を通し、生きがいのある療養生活支援を行っております。今後、急性期の病院や診療所の皆様に連携を通してますます信頼していただけるよう努力してまいりますので、よろしくお願いたします。

高岡市で歯科開業医をしています。米森と申します。このたびご縁があり富山県保険医協会の理事として勉強させていただきましたことになりました。開業して十五年がたちますがその間協会の取り組みや事務局の方々に大変お世話になっております。この場をお借りして感謝申し上げます。協会からは歯科会員にも医師の講演会の案内をいただいていたので、セミ

私には日々歯科診療にたずさわる中、安心感のある歯科医療の提供のためには科学的な知識・技術の向上と並び、医学的知識や地域医療圏を知ることが大事なことだと痛感しています。その意味で内科と歯科の会員がいる協会のメリットを生かした活動を発展できないかと思えます。より多くのことを吸収して微力ながら皆様のお役にたきたいと思っております。今後ともご指導のほどお願い致します。

した自分がそこにはありません。その後高度成長期とともに病院全盛の時代が到来しましたが、これからの医療のあるべき姿は機能分化です。病院は主に「Inpatient」で、在宅では主に「Outpatient」を観ています。今後は在宅医療を中心に保険医である我々に何が出来るか、そして何をすべきかを皆さんと一緒に考えていきたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

